

災対バルクで地域貢献

デイサービス白馬なるみず

エコア(本社・福岡市、権藤烈社長)は、災害対応バルク普及のための補助事業費(平成20年度)を使って、病院、介護施設、マンションなど14件に同バルクを設置した。国内最多の実績で、九州では同社だけが手がけてきた。災対バルクは、分散型で災害に強いLPガスの特性を生かして、地震など万一の災害が発生したときに地域住民に炊き出しなどを行う非常用燃料を供給する。地域貢献を重視するデイサービスの白馬(本社・北九州市)が同社の鳴水センターに災対バルクを設置したのを機に訪ねた。

エコア、補助金使い設置

業務用こんろ・炊飯器も準備

デイサービス白馬なるみず(北九州市八幡西区東鳴水)は昨年9月にオープン。JR黒崎駅から帆柱山方向に車で10分ほど走った高台にある。築6年の民家を買取り、リフォームしてデイケアセンターを開設。2階建てで、1階に機能訓練室、キッチン、2階に談話室、



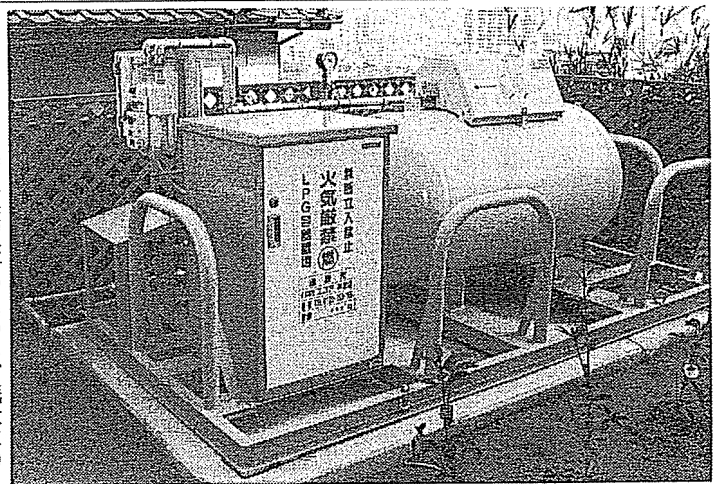
多田隈哲也氏



お年寄りのリハビリ室

寝室(3部屋)、浴室などを備える。センター長の多田隈哲也さんによると、認知症のお年寄りなどが通って、宿泊施設も整えている。LPガスは主に給湯用としてシン

リンターで供給しているが、災対バルクの提案をエコア芦屋店の栄



地域貢献のため設置した災対バルク

宏幸店長、北九州直売課の池田順次課長、くらしの森推進課の香田孝広課長らから受け、「地域住民のためになるなら」と設置に同意。導入された災対用バルクは、容量300錠(富士器製)。メーターは2種類あり、ひとつは施設内の日常の用に、もうひとつは万一の時のために使用する。万一のとき

のために、残量は30%程度を必ずキープ。その残量で50人程度なら1日3食(1食はおにぎり2個程度)を3日間提供できるといふ。

災対用バルク施設は、センターの裏庭に設置され、炊き出しを行うときは長さ6畳のホースをつないでバルクから離して使う。

同バルクのほか、2重巻きと3重巻きの業務用こんろ、5升炊きガス炊飯器を各2台ずつ揃え、階段下に保管。これらのガス機器も補助の対象となっている。

多田隈センター長は

「エコアから話を聞くまで、バルクという名前すら知らなかった。当センターは地域住民のご理解があって運営できる。地震が発生したときは、こ

こに集まって下さると言える。年2回行っている防災訓練などを利用して、地域の皆さんにPRしていきたい」と話している。